



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長
 山本 良一
 お問合せ先 経営戦略統括部
 IR・グループ広報推進部
 TEL 03-6895-0178

2018年5月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	5月度	3~5月度累計	5月度	3~5月度累計
百貨店事業	0.5 (0.7)	3.9 (4.2)	▲ 0.3 (0.1)	2.7 (3.2)
パルコ事業	▲ 4.7	▲ 6.3	▲ 6.8	▲ 5.1
不動産事業	10.0	67.9	8.0	62.9
クレジット金融事業	4.5	3.3	4.4	4.0
その他	▲ 14.8	▲ 24.3	▲ 14.6	▲ 21.9
連結合計	▲ 3.1	▲ 3.9	▲ 3.7	▲ 1.9

※1 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用いたしております。

※2 総額売上高

IFRS売上収益のうち百貨店事業と「その他(大丸興業)」の消化仕入取引を総額に、パルコ事業の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しております(なおパルコ事業では2017年度から日本基準の売上高を純額ベースで算出する方法に変更しております)。

※3 大丸浦和パルコ店は7月31日の営業終了をもって閉店いたしました。百貨店事業の()内は、大丸浦和パルコ店を除く既存店ベースの数値。

※4 PARCO_ya(上野)は2017年11月4日に開店いたしました。大津PARCOは2017年8月31日の営業終了をもって閉店いたしました。

※5 本年3月から百貨店事業の大丸神戸店周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しております。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 前年に比べて休日数が1日少ないことに加え、上旬の気温が前年に比べて低かったことや、前月好調の反動もあり夏物衣料品の動きが鈍かったものの、訪日外国人客を中心に化粧品、ラグジュアリーブランド、高級時計などが引き続き好調であった。なお、大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高は対前年56.2%増(客数同58.2%増、客単価同▲1.2%減)となった。

2) パルコ事業

- 積極的に導入している食品ショップが好調であったものの、月前半の大型連休が前年に比べて1日短かったことや気温が前年に比べ低く推移したことなどにより夏物衣料品の動きが鈍かったほか、一部の店舗でエリア内競合施設の影響を受けた。また、パルコスペースシステムズにおける前年の内装電気工事の大型受注の反動や、ニュー・エイにおける店舗数減少に伴う売上高の減少があった。

3) 不動産事業・クレジット金融事業・その他

- 不動産事業は、上野フロンティアタワーや大丸神戸店周辺店舗からの移管分の家賃収入が加わり好調であった。
- クレジット金融事業のJFRカードは、割賦販売手数料、加盟店手数料などが増加した。
- その他では、株式譲渡した連結子会社の売上減が影響した。

お問合せ先 J.フロント リテイリング株式会社 IR・グループ広報推進部

TEL 03-6895-0178
 FAX 03-6674-7565

2018年5月度 百貨店事業 営業報告(日本基準)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	5月度		3～5月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	9.9	20.8	14.2	19.2
大丸 梅田店	3.2	▲0.3	4.2	0.4
大丸 東京店	0.8	▲4.3	3.3	▲2.7
大丸 京都店	▲0.9	0.3	3.1	1.7
大丸 山科店	▲3.8	▲2.7	▲2.4	▲2.0
大丸 神戸店	▲1.1	▲7.0	3.1	▲3.4
大丸 須磨店	▲6.9	▲6.4	▲4.3	▲4.3
大丸 芦屋店	▲5.2	▲2.4	▲1.3	▲2.1
大丸 札幌店	4.4	1.5	5.2	0.6
松坂屋 名古屋店	▲2.1	▲2.9	2.1	▲0.8
松坂屋 上野店	8.6	32.6	6.1	33.8
松坂屋 静岡店	▲10.5	▲2.9	▲3.2	2.7
松坂屋 高槻店	▲6.2	▲2.1	▲2.5	▲1.7
松坂屋 豊田店	▲12.1	▲5.3	▲8.7	▲3.6
大丸松坂屋百貨店合計	1.2	0.8	4.2	1.9
博多大丸	▲1.0	▲2.1	1.6	▲0.5
下関大丸	▲6.4	4.4	▲1.7	10.7
高知大丸	▲8.3	▲7.1	▲2.7	▲2.5
百貨店事業合計	0.7	0.6	3.7	1.9

- ※1 本年3月から大丸神戸店周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しているため、神戸店の売上高は「賃貸契約へ移管したテナントの前年売上実績を除いた実質の対前年増減率」で表示しています。参考数値として、前年に不動産事業への移管分を含めた5月度の大丸神戸店の売上は、対前年%▲6.7%減、同じく3～5月度累計では対前年▲1.9%減。
- ※2 合計の前年は、大丸浦和パルコ店(2017年7月31日営業終了)と大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を除く既存店ベース。前年に大丸浦和パルコ店と大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を含めた5月度の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年0.1%増、百貨店事業合計 ▲0.3%減。同じく3～5月度累計は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年3.0%増、百貨店事業合計 同2.7%増。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	5月度	3～5月度累計
紳士服・洋品	▲3.2	2.0
婦人服・洋品	▲2.0	1.3
子供服・洋品	▲5.9	▲1.5
その他の衣料品	▲8.0	▲3.6
衣料品計	▲2.6	1.1
身回品	▲4.4	▲1.9
化粧品	22.4	32.1
美術・宝飾・貴金属	11.2	15.9
その他雑貨	1.5	▲4.0
雑貨計	16.4	22.9
家具	4.8	▲3.9
家電	▲7.4	5.2
その他の家庭用品	▲3.4	▲1.8
家庭用品計	▲2.0	▲2.1
生鮮	▲0.8	▲0.3
菓子	▲3.2	▲1.0
惣菜	▲3.9	▲1.2
その他食料品	▲1.2	▲1.9
食料品計	▲2.6	▲1.1
食堂・喫茶	▲6.5	▲2.5
サービス	▲0.4	▲1.9
その他	2.4	▲2.6
合計	0.5	3.5

- ※ 合計の前年は、大丸浦和パルコ店を除き、大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を含めています。

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが好調を持続したものの、夏物衣料品の動きが鈍かった。紳士服・洋品は、ビジネスウエア、ワイシャツなどが苦戦した。身回品は、婦人靴、紳士革小物が前年を下回った。雑貨は、化粧品、高級時計が引き続き伸びた。家庭用品は、食器調理用品、リビング雑貨の動きが鈍かった。食品は、上野フロンティアタワーの集客効果により上野店の洋菓子や惣菜が好調に推移したものの、静岡店、名古屋店の大型催事縮小などの影響があった。食堂・喫茶は、名古屋店のレストラン改装工事による面積減が影響した。